

# 肥育経営が飼料収穫部門を運営し、酪農経営向けに販売 (栃木県 (株) イソシンファーム)

## 経緯

- ◆ 水田経営を基盤に肥育牛の生産を開始。交雑種800頭、乳用種170頭を飼養。
- ◆ 平成21年から自農場の肥育牛向けに、耕種経営から稲WCSの収穫・調製作業を受託し、ロールを給与。
- ◆ 肥育牛への稲WCS給与技術が確立できたため、地域の担い手として、自家利用分も含め稲WCSの収穫・調製作業を拡大。

### <令和7年度作業面積>

品目	面積
水稻（主食用米）	16.4 ha
水稻（飼料用米）	6.7 ha
WCS用稲	80.0 ha（うち自家利用約1割）
稲わら収集	20.0 ha（うち自家利用約9割）
アスパラガス	1.2 ha



## 飼料の生産・取引状況

- ◆ 平成22年からは、栃木開拓農協を介して、酪農経営向けに収穫・調製したロールを販売。ロールは自身の土地で保管。
- ◆ 水田地帯のため、ほ場を確保しやすく稲WCSを作り易い。
- ◆ 飼料用米給与にも取り組んでおり、配合飼料に、交雑種3%、乳用種20%混合。
- ◆ 肥育部門6割、飼料部門3割、アスパラガス部門1割を柱に経営。

## 課題への対応など

- ◆ 「つきはやか」を導入することで、作業期間を分散させ、適期収穫による品質改善を目指す。完熟期から30日過ぎた枯れあがった状態で収穫するが、酪農経営の評判は良い。
- ◆ ほ場→保管場所→酪農経営と2回ロールを移動させるため、8層巻で対応。

【令和7年7月31日現在更新】